

〔海況概要〕

今週の本県近海の表面水温は、22～25℃台を示し、平年並みの水温でした。

〔漁況概要〕

- 中小型まき網——西彼地区では、マサバなどが1日1統当たり7トンの水揚げで、前週の1.8倍（前年を上回った）。五島奈留地区では、マサバなどが1日1統当たり4トンの水揚げで、前週の5倍（前年を上回った）。北松南部地区では、マサバなどが1日1統当たり16トンの水揚げ（前年を上回った）。橘湾地区では、カタクチイワシが1日1統当たり4トンの水揚げで前週並み（前年を下回った）。
- イカ釣——ケンサキイカは、対馬東岸地区では1日1統当たり24kgの水揚げで、前週の1.3倍（前年を下回った）。壱岐勝本地区では、1日当たり109kgの水揚げで、前週の4.5倍（前年を下回った）。
- 定置網——五島魚目地区では、ウスバハギなどが1日1統当たり289kgの水揚げ。北松生月地区では、ブリなどが1日1統当たり2.3トンの水揚げ。対馬西岸地区では、マアジなどが1日1統当たり25kgの水揚げ。対馬東岸地区では、ヒラマサなどが1日1統当たり74kgの水揚げ。
- 一本釣——北松宇久地区では、ヒラマサが1日当たり387kgの水揚げで、前週の2.2倍（前年を上回った）。

〔日本海スルメイカ情報〕

今期（10/24日～10/30日の7日間）沖合イカ釣り船、船凍船は大和堆付近へ出漁した。沿岸イカ釣り（氷蔵船）は、山口沖～隠岐海峡～鳥取沖～兵庫沖～能登半島沖にかけて出漁した。鳥取県西部（沖合船）：6日延35隻、総計1,578箱、1航海最高130箱、平均45.1箱、スルメイカを中心に漁獲、魚体は20～30入主体。今期は、隠岐海峡～鳥取沖～兵庫沖にかけて漁場が形成し漁獲は増加した。

（漁業情報サービスセンターより）

〔お知らせ〕

漁海況通信「第31-31号 五島灘・壱岐水道・対馬東水道の観測結果・第31-32号 6県ケンサキイカ情報」を長崎県庁ホームページに掲載しています。

長崎県庁ホームページ「地方機関 総合水産試験場」の「漁海況情報」から漁海況週報や漁海況通信をご覧ください。

<https://www.pref.nagasaki.jp/section/suisan-shiken/index.html>